

学校教育自己診断の結果分析と課題について

1. アンケート回収状況について(11月28日付)

年度	回収率		
	児童生徒	保護者	教職員
R6	229/331(69.2%)	232/331(70.1%)	138/138(100%)
R7	255/343(74.3%)	261/343(76.1%)	142/142(100%)

2. 診断結果について

肯定的回答・・・A(よくあてはまる)B(ややあてはまる)

否定的回答・・・C(あまりあてはまらない)D(あてはまらない)

R5年より保護者アンケートと児童生徒アンケートを保護者(家庭)へ配付しての回答としており、今年度はともに回収率が5%以上増加した。

3. 分析(別紙アンケート結果参照)

	肯定的回答 (黄色マーカー)	否定的回答 (青色マーカー)	前年比アップ率 (<input type="checkbox"/> 囲み)
児童生徒	80%以上	20%以上	5%以上
保護者	85%以上	15%以上	5%以上
教職員	90%以上	20%以上	5%以上

以下の3点を中心に分析を行った。

- 前年比より5%以上の増減がある項目について
- 肯定的回答が80%以下の項目について
- 学校経営計画に関わる項目について

<児童生徒>

肯定的回答(前年度)	否定的回答(前年度)	前年比より増加している項目(前年度)
9項目/23項目中 (13項目/23項目中)	2項目/23項目中 (4項目/23項目中)	3項目/23項目中 (11項目/23項目中)

・肯定的回答が前年比より5%以上増加している項目は**3項目**あり、それぞれ項目9が9%、項目10が6%、項目16が5%増加しており、改善傾向にある。

・一方で、肯定的回答が前年比より5%以上減少している項目は、**16項目**(1、2、3、4、5、8、12、13、14、15、17、18、19、20、21、22)ある。中でも項目8【先生になんでも相談できる】は**1%**減少しており、改善の余地があると考えられる。

・また、全体的に無回答が増加していることや、保護者の自由記述から「児童生徒の実態によって判断が難しい」といった意見が散見されることを受け止め、分析方法の改善を検討します。次年度より、より明確な傾向を把握するため、「A・B(肯定的回答)」および「C・D(否定的回答)」の比率に焦点を当てた分析へと移行し、評価の精度向上を図ります。

<保護者>

肯定的回答(前年度)	否定的回答(前年度)	前年比より増加している項目(前年度)
14項目/26項目中 (19項目/26項目中)	2項目/26項目中 (0項目/26項目中)	2項目/26項目中 (1項目/26項目中)

- ・肯定的回答が前年比より5%以上増加している項目は**2項目**あり、それぞれ項目13が15%、項目19が6%増加しており、改善傾向にある。
- ・肯定的回答が80%以下の回答は4項目(前年度は1項目)で微増傾向にある。中でも学校の施設設備に関する項目(項目15、16)は毎年80%前後となっている。加えて項目16は否定的回答も22%であり、継続的な課題である。
- ・肯定的回答が前年比より5%以上減少している項目は、項目(11、14、15、16、26)の5項目ある。中でも項目11【学校は、日常生活において、子どもの人権を十分に尊重している】は**11%減少**、否定的回答が**16%**(前年度は12%)であることから、改善の余地があると考えられる。

<教職員>

肯定的回答(前年度)	否定的回答(前年度)	前年比より増加している項目<<5%以上>> (前年度)<<10%以上>>
28項目/39項目中 (21項目/39項目中)	1項目/39項目中 (3項目/39項目中)	10項目/39項目中 (22項目/39項目中)

- ・各項目における否定的回答20%以上は1項目(前年度は3項目)であり、改善傾向にある。該当の校内の人事に関する項目(項目18)も肯定的回答が前年度より8%増加しているため改善傾向にある。
- ・学校経営に関する項目(15、16、17、18、19)はそれぞれ5%以上増加しており、継続して取り組んでいることが結果として表れている。
- ・今年度重点課題としていた①ヒヤリハットに関する項目(項目13)は肯定的回答が**6%増加**しており、その中でもA(よくあてはまる)が昨年度より17%上昇していることから重点課題として分掌で取り組んだこと(QRコードを利用した集約のアナウンスや職員朝礼での周知等)が結果として表れている。
- また、②各分掌や各学部、学年間の連携に関する項目(項目19)も肯定的回答が**8%増加**しており、各学部、学年、分掌等での連携がより密にとれるようになってきたことが結果として表れている。
- ・数値的には前年比より増加している項目は減少しているが、肯定的回答数の増加、否定的回答の減少という結果から全体的に改善傾向にある。

4. 次年度の重点課題

上記の結果を踏まえ、次年度の重点課題として、以下の4点に関する満足度の向上および改善に努めていく。

(1) 児童生徒アンケート(肯定的回答前年比11%減)

8	先生には、なんでもそうだんできる。	104	69	27	12	43
		41%	27%	11%	5%	17%

(2) 保護者アンケート(肯定的回答前年比11%減)

11	学校は、日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重している。	135	77	43	1	5
		52%	30%	16%	0%	2%

(3) 教職員アンケート(肯定的回答前年比2%増)

7	教育相談体制が整備されており、児童・生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。	59	65	14	2	2
		42%	46%	10%	1%	1%

(4) 学校経営計画に関わる項目

- 1 児童生徒が安全安心な学校生活を送る事ができるよう体制を整える。
- (3) 児童生徒が心理的に安心できる環境を提供する。
- (3) 子どもサポート室の開設、および相談週間の設定。